

第二期阪神北県民局地域創生戦略（R5.3改定）

I 目指す姿

阪神北地域は、かつての首都圏「畿内」西端の「摂津国」に属し、歴史の表舞台に数多く登場してきた。明治時代の鉄道網の開発とともに、快適な住環境を備えた郊外住宅地として発展し、近代的な芸術文化や生活様式を柔軟に取り入れた独特のライフスタイル「阪神間モダニズム」を築き、特色ある歴史・文化を育んできた。

また、交通網が充実した多くのニュータウンが開発される一方で、森林面積が約6割を占め、その約9割が天然林であり、今なお歴史・文化や生物多様性などを保つ里山が数多く残されている。

しかし、人口の減少や少子高齢化が急速に進むことにより、オールドニュータウン問題の顕在化や地域の活力低下の問題が大きくなっている。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるテレワークの拡大など働き方の変化や地方移住への関心の高まり、人との接触を減らすキャッシュレス化やオンライン化などの生活環境の変化や、SDGsなどへの対応が求められている。

このため、利便性が高く、魅力ある地域資源をつなぐ充実した鉄道網・道路網などが整った快適な住環境や、「日本一の里山」をはじめとする豊かな自然が身近な生活、さらには消費地に近接し、地産地消に貢献する都市・都市近郊農業など、コロナ禍による生活環境の変化に対応しうる地域の特性を生かし推進する施策を、SDGsの視点を踏まえながら、県民や市町などと連携し展開する。これにより、多様な立場の人がつながり、対話しながら新しい価値を共に創る「コ・クリエーション(co-creation 共創)」により、地域のさらなる活力と豊かな暮らしを育んでいく。

【目標】

取組方向	K P I	目標
自分らしいスタイルが実現できるまち	阪神北地域に住み続けたい人（住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合）	80%以上
	転入者数（日本人住民・国外含む）	27,000人
自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち	対外的に誇れる地域資源の存在（住んでいる地域に自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合）	60%以上
	自然環境の保護（住んでいる地域で自然環境が守られていると思う人の割合）	65%以上
みんながつながるやさしいまち	移動の利便性が高い地域（住んでいる地域の公共交通機関は便利だと思う人の割合）	70%以上
	防災意識の向上（家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合）	50%以上
にぎわいのあるまち	地域資源の価値（観光消費額（名目））	1,370億円
	農産品等生産・流通（農業産出額（推計））の向上	88.6億円

II 取り組みの方向性

1 自分らしいスタイルが実現できるまち

利便性と自然環境のバランスがとれた地域で、ICTやAIなどの進化する技術を活用しながら、起業やまちづくりの活動、職住近接などを通じて、ワクワク感や面白いことに挑戦できる地域を目指す。

また、時間や空間にゆとりを持った多様な暮らしの実現、自分らしいスタイルを実現できるまちを目指す。

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

北摂の里山や阪神間モダニズムに代表されるこの地域に息づく文化や歴史などの様々な地域資源をまもり、次世代へ継承させる取り組みを進める。豊かな地域資源を地域住民自身も体感することによって、こころ豊かで、地域に愛着を持った人を育て、次世代への継承を目指す。

3 みんながつながるやさしいまち

都市部特有の近所付き合いの希薄化、少子高齢化が進む中、既成の概念にとらわれない新しいスタイルのコミュニティを形成しながら、自身が望むようなつながりを持てたり、世代を超えてつながることができるまちを目指す。

また、脱炭素社会に向けた取り組みや、災害時にも誰一人取り残さないまちを目指す。

4 にぎわいのあるまち

宝塚大劇場のような観光スポットや、「『伊丹諸白』と『灘の生一本』下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷」などの日本遺産、豊富な地域資源の磨き直し、おいしい地元産の食により、外国人も含む人々の交流の促進を図り、いっそうにぎわいのあるまちを目指す。

III 具体的な取り組み（主なもの）

1 自分らしいスタイルが実現できるまちの創出

(1) 「ひょうご北摂ライフ」の推進

移住・定住の促進を図るため、良好な住環境や地域の魅力を体験する機会を提供するなど、阪神北地域の暮らしやすさのPRに市町と連携して取り組む。

- ・「ひょうご北摂ライフ」魅力発信による移住・定住の促進 等

(2) 多様な人々が住みやすいまちづくり

障害者の自立と社会参加を推進するため、常設ショップやバザールの実施により、管内の障害者就労施設で作られた自主生産品の販売拡大支援や、障害者の就労支援に取り組む。

- ・“きらっと☆オンリーワン”商品の販売促進
- ・障害者の就労支援 等

(3) 地元産業の人材確保等支援

豊かさや賑わいを創出する地域経済の活性化を目指し、高等学校等と連携した管内ものづくり企業や農業などの将来の担い手の育成を支援する。

- ・農業の担い手育成に向けた若者への働きかけ

- ・起業、創業の支援
- ・管内企業の人材確保支援 等

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまちの創出

(1) 北摂里山の魅力向上の推進

伝統的里山、先進的里山、天然記念物の保全管理や環境学習の支援などを担っている地域団体等と連携しながら、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげるため、北摂里山博物館構想を推進するとともに、2025 大阪・関西万博におけるフィールドパビリオンとして発信していく。

- ・北摂里山魅力づくり応援事業
- ・里山資源を活用した環境学習・環境創生
- ・北摂里山サイクルツーリズムの推進 等

(2) 伝統文化と阪神間モダニズムが息づくまちづくり

「阪神間モダニズム」をはじめとする地域内に存在する文化・芸術に触れる機会を提供し、次世代へ継承する機運を醸成する。

- ・「新宮 晋 アート」の魅力発信
- ・美術館や博物館の無料開放 等

3 みんながつながるやさしいまちの創出

(1) 高齢者にやさしいまちづくり

高齢者が活躍できる地域づくりを目指し、高齢者の健康づくりへの取り組みを支援する。

- ・フレイル予防の推進 等

(2) 持続可能な暮らしの実現

公民連携による地域課題の解決や、地域の防災力の向上に取り組むとともに、少子化・高齢化による人口減少に対応した地域の公共交通の維持に市町、事業者とともに取り組む。

- ・地域活動団体のスキルアップ支援
- ・地域の防災力向上
- ・公共交通の利用促進
- ・総合治水対策の推進 等

4 にぎわいのあるまちの創出

(1) ひょうご北摂の観光魅力発信

2025 大阪・関西万博を見据え、交流人口の拡大を図るため、多彩で魅力的な地域資源のPRや外国人観光客の誘客促進に向けたツーリズム施策を展開する。

- ・ホームページ・SNSによる多言語情報発信
- ・観光物産展の開催 等

(2) 美味しい「食」と多彩な「農」の創出

都市・都市近郊農業の振興を図るため、阪神地域の特色を活かした多彩な農畜

林産物や「食」に関わる活動拠点をアトラクションとし、地域全体をテーマパークと見立てて策定した“阪神アグリパーク構想”を推進する。

- ・ 阪神アグリパーク構想の推進 等

(3) まちなかのにぎわい創出

来訪者や地域住民がまち歩きを楽しむことで、まちなかのにぎわいを創出することを目指し、市町と連携しまち並み整備等に取り組む。

- ・ 武庫川（宝来橋～宝塚大橋）周辺散策空間の整備
- ・ 多田神社周辺のまち並み整備
- ・ 三田駅周辺散策空間の整備